

1 羽田沼周辺の過去から現在

協議会では、ミヤコタナゴの再導入に向けていろいろと協議をしてきました。協議を重ねて行く上で、昔の羽田沼周辺の環境が話題となってきました。そこで、ミヤコタナゴ通信 創刊号で「羽田地区の過去の写真を集めております」とお知らせしましたところ、地域の方々から、「こんな写真があった」との情報提供をいただきました。ありがとうございました。

また、環境省の書庫には、生息地保護区に指定された前後※1に撮影された写真や、平成10年8月に発生した栃木県北部豪雨災害後の写真、ミヤコタナゴの生息が確認されなくなった頃の写真（平成14年頃）等が残されており、現在取りまとめ作業を行っております。次回の通信で紹介する予定です。

今回は、羽田沼から生息水路周辺を上空から撮影した写真（国土地理院所蔵）を、時系列で取りまとめたものをご紹介します。※1羽田沼周辺が生息地保護区に指定されたのは平成6年12月です。



写真1（昭和22年撮影）



写真2（昭和38年撮影）

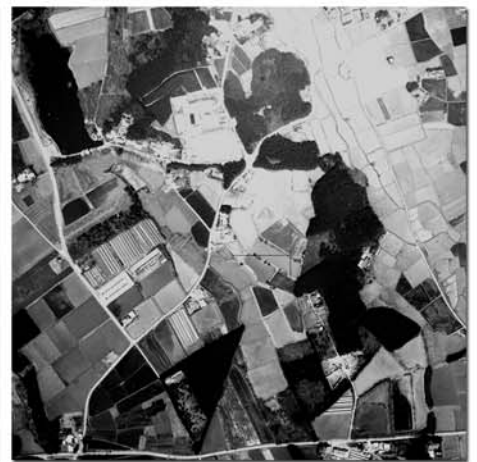


写真3（平成6年撮影）

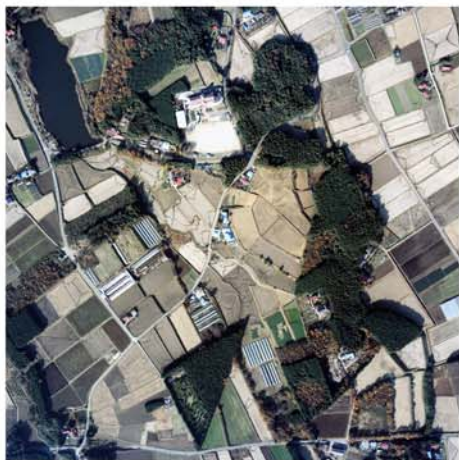


写真4（平成14年撮影）



写真5（平成20年撮影）

この写真を見て、みなさんは何を思い浮かべますか。

写真1はアメリカ軍が第2次世界大戦直後に撮影したもの。写真2は高度経済成長期中に撮影されたもの。写真3は生息地保護区に指定された年。写真4はミヤコタナゴが確認されなくなった年。写真5はマツカサガイの減少が危惧され始めたころ。

土地の利用形態はほとんど変化していませんが、ミヤコタナゴの生息は大きく変わってきました。

このことは、何を意味するのでしょうか。ご意見をいただければと思います。いただいたご意見を基に目標設定について今後議論を進めていければと考えております。



写真6（平成4年撮影：出典は不明 環境省保管資料より）

今まで収集した資料、写真から一部について紹介します。写真6については、羽田沼の過去を把握するうえで貴重な1枚となっています。写真から読み取れることとしては、『夏に撮影されている、水量が多い、抽水植物が沼一面に繁茂している（ジュンサイが繁茂していたとの話があります）、比較的広範囲にヨシが生育している』などが読み取れます。